

テーマ：『 自ら課題をもち、生き生きと追求する子どもを育てる環境教育』

北九州市立 松ヶ江南小学校

Tel. 093-481-0700

担当者： 内田 由香利



■実践内容：

(1) 3年「発見・冒険・川探検」の学習

本校の近くには、「櫛毛川」「相割川」など4つの川が流れている。子どもたちは、折りに触れて魚釣りをしたり、ホタルを捕まえたりして川に親しんできた。この親しみ深い川をより深く知るため、3年生の子どもたちは、2つの川について「どのような植物が生息しているか、また、どのような生き物がいるか。」「石の様子は、川全体を通してどのように違っているか。」「川のどこにどのようなごみが多いか。」などの課題をたてて調べていった。

これらの課題をもち、各グループで、実際に川に行き行って調べた。そして、川に生息している生き物の名前を調べたり、ごみを分類して、表にまとめたり絵に表したりした。また、調べたことを地域の人や保護者の人に聞いてもらい、私たちの地域の川のすばらしいところやその川にごみを捨ててはいけないことなどを訴えた。

(2) 4年「めざせ！子どもエコ生活」の学習

4年生になって「めざせ！子どもエコ生活」の学習で、身近な自分の生活に焦点をあてて、次のような課題（リサイクルをしてどのようなものになるのか。スーパーマーケットのエコとは、どのようなものか。昔と今の買い物の仕方はどのように違うか。北九州市のごみの出し方が変わったことで、環境面でどのような変化があったか。地域にやさしい商品はどのように作られるか。川のごみを減らしていくために、自分たちにできることはないか。）で学習を進めた。北九州市のごみの収集の変化による環境への影響などにも興味をもった。3年生からの引き継ぎで、「櫛毛川」「相割川」など近くの川の環境を守るために、どのようなことができるか考えて、活動を始めたグループがあった。これまでの学習を生かし、さらに地域の生活につながりを見つめる活動に取り組んでいる。

■実践成果：

児童が日常の風景として目にする相割川や櫛毛川を追求の対象としたことは、次の点で効果的であった。まず、相割川や櫛毛川は、生き物の生命をはぐくむ川、生活排水を受け止め循環する生活環境としての川など様々な姿を併せもつため、多面的に調べ活動を行うことができた。児童個々の思いから生まれる多様な課題設定と追究活動が可能になった。また、直接体験ができ、自分の生活に返すことが容易であるため、身近な人や地域を学びの対象として価値づけることもできた。この学習から生まれた、生きものに対する好奇心や川を大切にしたいという思い、地域に対する思い等を通して、「環境を守る」ことへの意識付けや地域への愛着・帰属感を高めることができた。学年の発達段階に応じて、身近な環境に目を向ける学習を進めることで、子ども達の自主性も育ち、実践力を培うこともできる。学年を積み重ねるに従い、その思いはより確かなものになると考える。学校に昨年完成したふれあい広場（ビオトープ）での様子からも、生きものに対する好奇心や川を大切にしようとする意識、地域に対する思い等をはぐくみ、「環境を守る」ことへの意識付けや地域への愛着・帰属感を高めることにつながっていることが分かる。

■実践のイト：

児童の課題意識を大切に活動を行っていった。地域に出かけ、自分たちの目で見て、考えて行動することで、児童は、大変意欲的に活動した。また、自分達が学んで分かったことを保護者や地域の方へ知らせようと、新聞発行や市民センターでのポスター掲示など様々な広報活動を考える姿も見られた。